一票の重さがちがうしくみ（一票の格差）

なぜ選挙区によって一票の重さがちがうのか

A区（架空の選挙区）
有権者 20万人

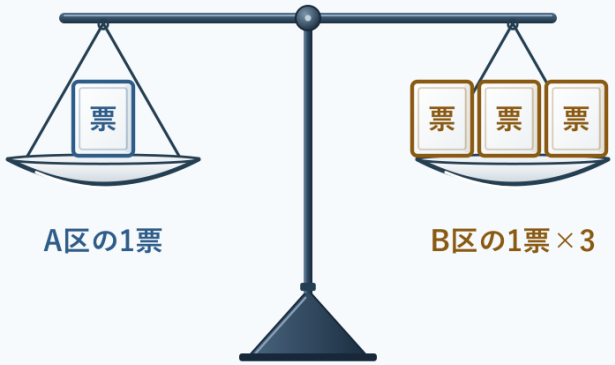


選挙で選ぶ

議員 1人

人型1つ＝4万人

1票が、当選する1人を選ぶ力
（1票の重さ）



A区の1票　　B区の1票×3

つり合う

B区（架空の選挙区）
有権者 60万人



選挙で選ぶ

議員 1人

人型1つ＝4万人

議員1人あたりの有権者の数
A区 20万人 ／ B区 60万人

→ 60万人 ÷ 20万人 ＝ 3

→ **A区の1票は、B区の1票の3倍の重さ**
＝ 一票の格差は 3倍

1 人口が移る
人々が地方から
都市へ移り住む

→

2 有権者の数が変わる
区割りや定数がそのままだと、
都市の区は増え、地方の区は減る

→

3 一票の格差が広がる
議員1人あたりの有権者の
数の差が大きくなる

→

4 区割り・定数を見直す
選挙区や議員の数は、
法律で定める（第47条）

かかわる憲法：すべて国民は法の下に平等（第14条1項）。両議院は、全国民を代表する選挙された議員で組織する（第43条1項）。
一票の格差が大きいと、法の下の平等に照らして問題ではないかが議論になる。

※ 選挙区・人数はすべて架空の例で、実際の選挙区や選挙の結果ではない。1人を選ぶ選挙区で示した。